

「知床」世界遺産登録時に決議された調査団の調査結果について

1. 背景と目的

平成17年7月の第29回世界遺産委員会において、「知床」が世界自然遺産に登録された際の決議に基づいて、海域管理計画の策定状況や遺産地域の海洋資源の保全の効果、その他の勧告事項への取組状況などを評価するための調査団を招聘したものの。

2. 調査期間

平成20年2月19日（火）～22日（金）（4日間）

3. 調査団員

キショール・ラオ氏（Mr. Kishore Rao）
（ユネスコ世界遺産センター次長）
デビッド・シェパード氏（Mr. David Sheppard）
（IUCN保護地域事業部長）

4. 調査日程

日程	調査内容	宿泊地
2月18日（月）	来日	東京
2月19日（火）	環境大臣表敬 日本政府による遺産登録後の経過説明 東京から羅臼町へ移動 レセプション（地元主催）	羅臼 （北海道）
2月20日（水）	海域管理計画に関する意見交換会 現地視察（漁港、オオワシ・オジロワシ観察、羅臼ビジターセンター）	ウトロ （北海道）
2月21日（木）	登録後の取組状況に関する説明会 ・ 河川工作物の評価・改修について ・ <u>エゾシカの保護管理について</u> ・ 利用適正化に向けた取組について ・ エコツーリズムの推進について 現地視察（河川工作物、流氷など）	ウトロ （北海道）
2月22日（金）	地域の取組に関する関係団体との意見交換会 記者会見 ウトロから東京へ移動	東京
2月23日（土）	離日	

5. 登録後の取組についての調査団の現地における評価

○登録後これまでの取組全体に対する評価

- ・世界遺産委員会及び I U C N から出されていた課題については、継続的な対応が必要だが、大変良く対応されており、素晴らしいスタートが切られている
- ・取り組みに当たり、地元との協議の上で科学的知見を取り入れつつ検討がなされていることを高く評価

○エゾシカ対策の取組に対する評価

- ・遺産地域の価値を守るため、植生が損なわれないようアプローチをしている。個体数調整等を含め現在の取組の方向性を支持
- ・管理の指標を設けて植生や生態系への影響を把握し、今後の検討に生かすことが重要

○今後の予定について

- ・今回の調査を踏まえた調査団からのコメントは、今後ユネスコと I U C N により作成され、日本政府とのやりとりを踏まえて本年7月の世界遺産委員会に報告される予定